

Ⅲ. 建築学科の基本姿勢

【学科概要】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、災害からの復興に対する貢献、地震・津波避難施設の各地域での在り方など建築学が果たすべき新たな課題も現出しています。これらは、加速する高齢化社会への対応とともに北海道内においては、冬期災害時の対応も含めた検討が重要となっています。また、電力需給の関係からは、より一層の省エネルギー、省資源化も建築学に求められる重要な課題となっています。

建築学科では、積雪寒冷地固有の問題も含めた建築学の各分野の基礎知識を修得したうえで、新たな課題も含めた近年の建築分野で進む急速な専門化への対応と、地域環境から地球環境までを視野に入れた循環型を目指す多様な社会の要請に応えるための能力を培うことを教育研究上の目的としています。

【教育目的】

建築学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力、の修得のもとに、建築に関する総合的な知識技術を基盤として、専門性を高めたカリキュラムで積雪寒冷地固有の問題も含めた建築計画手法や建築技術を習得し、地域社会に貢献する次のような建築設計者・建築技術者を養成します。

- ①風土、歴史、文化などを踏まえた建築や都市空間をデザインする創造力と設計能力を有する建築設計者
- ②健康で快適な生活環境や環境負荷の小さな建築空間を創るための建築環境・設備技術者
- ③建築空間の構造的安全性、耐久性、信頼性を創出するための建築構造・施工技術全般の専門知識と設計技術を習得した建築設計者、技術者

【教育指針】

建築空間や構造物、あるいはそのインテリアや住環境の快適さに興味があり、それらを創造することに興味がある学生を受け入れ、学生個々の興味と適性を尊重しながら、自らの意志で積極的に学ぶ力と、設計や実験などの演習と課題解決に熱心に取り組む姿勢を醸成し、建築の各専門分野の中から得意分野を見出すことができるよう支援することを最も重視しながら教育にあたります。

【教育・学習目標】

- 1年次： 学生個々人のキャリアに応じて必要とする基本教育科目、建築に関する総合的な知識技術の基礎となる専門教育科目である建築計画原論、建築一般構造、建築基礎演習などについて教育・学習し、本格的に専門技術の学習を可能にする基礎力を身につけるとともに、自分の得意分野を概括的に把握します。
- 2年次： 建築に関する総合的な知識技術に関わる建築計画、熱・空気環境、建築構造力学、建築材料などの専門教育科目群および基本教育科目群について教育・学習し、学生個々の適性に応じ専門化していくために必要な基礎知識を獲得します。
- 3年次： それぞれ専門分化した科目群について重点的に教育・学習し、専門知識を修得、4年次の卒業研究に着手できる知識と素養を獲得します。さらに3年次までの建築に関する専門知識を建築総合演習Ⅰで確実にします。
- 4年次： 1年を通して卒業設計あるいは卒業論文を作成し、同時に4年次までの建築に関する専門知識を建築総合演習Ⅱで確実にします。また将来建築設計者、建築設備システム技術者あるいは建築施工技術者として必要な倫理観を身につけ、共通的工学系科目を教育・学習します。これら総まとめの学修により、教育目的を達成します。

【ディプロマ・ポリシー】

建築学科は、本学の教育理念である「ヒューマニティとテクノロジーの融合」を中心に据え、「北海道および我が国の活性化を実質的に支える人材の育成」を教育目的として、学部の教育課程が定める授業科目を履修し、別に定められた卒業要件を満たした学生に「学士」の学位を授与します。これによって、卒業生には、以下の能力・知識・態度が身についていることを保証します。

1. 知識・理解

- (A 1) 基礎的素養：建築物の設計者・技術者となるために必要な自然科学、語学、芸術、健康、情報リテラシーなどの基礎的な素養。
- (A 2) 建築の基礎的知識：積雪寒冷地を含む建築の計画、設計、生産、保全を行うための学術、技術、芸術における建築の各分野の基礎的な知識。
- (A 3) 建築の基礎的表現能力：建築学の基礎的能力を基に、設計図書で求められる基本的な内容を図面や文章によって表現することができる。
- (B) 建築の文化的知識と都市・まちづくりに関する知識：積雪寒冷地を含む国内外の各地域の自然や歴史的・文化的背景に基づく建築物や都市・地域の成り立ちや変遷およびその学術的意義を理解している。

2. 汎用的技能

(C) プレゼンテーション能力

与えられた課題に対する報告や自分が考えて得られた成果を的確な日本語等の表現を用いて、論理的に説明することができる。

(D) 情報リテラシーと数量的スキル

多様な情報を効果的、効率的に分析収集し、当該目的に応じた問題解決結果を呈示する方法と各種測定値や解析値を基にした数理解析能力。

3. 態度・志向性

(E) チームワークと自己管理能力

建築が多岐に亘る専門の総体であることから、協働して問題の解決に携わる必要があることを理解すると共に、発表・討論などの双方向対話において、自らを律すること。

(F) 建築が負う社会的責任

既往の自然災害による建築物の被害や建築設計・生産が各種法規制を遵守し、社会的責任を自覚した上で行われるべきことを認識し、環境負荷の小さい建築空間や材料のリサイクル、リユース、建築物の長寿命化等の持続可能な建築計画手法。

(G) キャリアデザイン能力・生涯学習力

建築に関連する各分野の動向を把握し、将来の目標を自らの適性と社会的責任も考慮して設定した上で進路選択し、それぞれの職種で卒業後も専門能力を高める必要があることを認識している。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

(H) 総合力

自ら設定した現実的な課題に対して、それまでに修得した各種知識群を用いた問題の解決方法と結果を創造性と実用性を主眼とした的確な方法を用いて表現することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

本学では、ディプロマポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各ポリシーと授業の整合性を体系的に理解してもらうためのカリキュラムフローを作成しています。また、各授業科目の達成目標とディプロマポリシー各項目の関連性についてはカリキュラムマップにまとめられております。学生諸君はこれらのツールを利用して学習を進めることにより、卒業＝ディプロマポリシー達成までの過程における自らの立ち位置を確認することができます。また、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、および改善を行います。

【アドミッション・ポリシー】

建築学科では、建築学の幅広い知識や表現能力と文化、歴史、自然、現代社会が抱える諸課題との関連性も含めて体系的に応用する能力、積雪寒冷地固有の建築学に関する諸問題に対する実務上の解決手段に関する知識および技術者倫理を尊重して、新たな課題に対応する創造的、論理的思考力や生涯学習力の育成を教育目標としています。

建築・都市空間をデザインする創造力と設計能力や健康で快適な生活環境を創るための建築環境・設備の技術や建築空間の構造的安全性、耐久性、信頼性を創出するための建築構造・施工技術全般の専門知識と設計技術を習得し、積雪寒冷地域固有の諸課題へも対応できる設計者、技術者を養成するための教育・研究を行います。

—求める人材像—

- ・ 自然環境、地域文化、高齢化や省エネルギー等の社会的諸問題と建築や人間生活との関わりについて関心を持ち、生涯にわたり、自らの能力を高めようとする意欲と知的好奇心旺盛な人
- ・ 課外活動等を通して、コミュニケーション能力やチームの一員としての自覚を有している人
- ・ 美術、彫刻等の芸術やCGや図面等の各種表現方法に興味を持ち、意欲的に取り組める人
- ・ 様々な課題に対して、創意工夫に富む発想を有し、主体的、意欲的に取り組める人
- ・ 高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ姿勢を経験し、建築学を学ぶために必要な基礎学力(国語、数学、理科、外国語)を有すると共に人類や文化の発展と歴史に関する基本的知識(地理歴史、公民)を身につけている人